すゞろごと

樋口一葉

青空文庫

ほとゝぎす

ほとゝぎすの声まだしらねば、いかにしてか聞かばやと恋しがるに、人の訪ひ来て、「何かは聞えぬ事のあるべき。我が宿の大樹にはとまりてさへ鳴くものを、夜ふけ枕にこゝろし給へ。近く聞く時は唯一こゑあやしき音に聞きなさるれど、遠くなりゆく声のいと哀れなるぞ」と教へられき。

時は旧き暦の五月にさへあれば、おのが時たゞ今と心いさみて、それよりの夜な〳〵目もあはず、いかで聞きもらさじと待わたるに、はかなくて一夜は過ぎぬ。そのつぎの夜もつぎの夜もおぼつかなくて、何時しか暁月夜の頃にもなれば、などかくばかり物はおもはする、いとつれなくもあるかなと憎くむ〳〵猶まつに弱らで一夜を待あかしゝに、ある暁のいとねぶうて、物もおぼえずしばし夢結ぶやうなりしが、耳もと近くその声あやまたず聞えぬ。まだ聞かざりし音をさやかに知るは怪しけれど、疑ひなきそれと枕おしやりて、居直れば又一こゑさやかにぞなく。故人がよみつる歌の事などさま〴〵〳〵胸に迫りて、ほと〳〵涙もこぼれつべく、ゆかしさのいと堪へがたければ、閨の戸おして大空を打見あぐるに、月には横雲少しかゝりて、見わたす岡の若葉のかげ暗う、過ぎゆきけんかげも見えぬなん、いと口惜しうもゆかしうも唯身にしみて打ながめられき。

明ぬれば歌よむ友のもとに消息して、このほこりいはゞやとしつるを、事にまぎれてさて暮しつ。夜に入れば又々鳴きわたるよ。こたびは宵より打しきりぬ。人の聞かせしやうに細やかなる声はあらねど、唯ものゝ哀れにて、げに恋する人の我れに聞かすなと言ひけんも道理ぞかし。おもふ事なき身もと、すゞろに鼻かみわたされて、日記のうちには今宵のおもふこと種〴〵しるして、やがて哀れしる人にとおもふ。

かくて二日ばかり、三日の後なりけん、ゆくりなく訪ひ来し友あり。いと嬉しうて、今やこの事かたり出ん、しばししてや驚かすべき、さこそは人の羨やましがるべきをと、嬉しきにも猶はゞかられつゝ、あらぬ事ども言ひかはすほどに、折しもかの子規軒端に近う鳴く声のする。「あれ聞き給へ。此宿はこゞゐの森にもあらぬを、この夜頃たえせず声の聞ゆるが上に、ひるさへかく」と打出したれば、友は得ときがたきおもゝちして、「何をかのたまふ」とたゞに言ふ。かく〳〵と語れば、「そは承けがたき事」と打かたぶき打かたぶきするほどに、又も一声二声うちしきれば、「あれが声を郭公とや。いかにしてさはおぼしつるぞ、いとよき御聞きざま」と、友は口おほひもしあへず笑みくづがへる。「いつも暁よりなきいでゝ夕ぐれまでは御軒のものなるを、いかにしてさは聞き給ひけん、物ぐるほしくもおはしますかな」といよ〳〵笑ふに、「さにはあるまじ。いかで山がらすをさはおもふべき。あの鳴ね聞き給へ、よもあやまらじ」と不審かしうなりて言へば、「月夜に寝ほうけて鳴出る時は常の声とも異なりぬべし。今のなく音は何かは異ならん。あれ見給へ、飛びゆく姿もさやかなるを」と指さゝれ

て、あはれこの子規（ほとゝぎす）いつも初音（はつね）をなく物になりぬ。覚（さ）めずは夢のをかしからましを。

青空文庫情報

底本：「全集樋口一葉　第二巻　小説編二〈復刻版〉」小学館
1979（昭和54）年10月1日第1版第1刷発行
1996（平成8）年11月10日復刻版第1刷発行
入力：もりみつじゅんじ
校正：浅原庸子
2003年3月23日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

すゞろごと

樋口一葉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/